

INFORMATION



《NEWS》

■第16回遺跡発表会を開催しました

平成24年7月14日(土)に佐倉市民音楽ホールで開催した遺跡発表会は、400名を超える来場者がありました。今回は佐倉市史編さん委員会考古編専門部会員の小高春雄氏を講師に迎え、「中世印旛地域の城・館・屋敷」という題名で講演をしていただきました。



■国史跡 岩屋古墳(第2次)現地説明会を開催

平成24年6月23日(土)、岩屋古墳にて現地説明会を行いました。今回も400名もの来場者があり岩屋古墳への関心の高さが感じられました。



■佐倉城跡(歴博第10次)現地説明会を開催

平成25年2月3日(日)、佐倉連隊兵舎跡の現地説明会を開催しました。寒風の中、120名もの来場者がありました。



《ご案内》

■企画展「遺跡を読む! -発掘調査報告書を10倍楽しむ方法-」開催中

当センター考古資料展示室にて、平成25年6月28日まで企画展を開催しています。今回は、専門

性ゆえに分かりにくいという声もある「発掘調査報告書」に焦点をあて、どのようなことが書いてあるのかを解説していくことによって、報告書を読む楽しみを感じてもらおう展示をしています。



《平成24年度 調査を行った主な遺跡》

- 〈成田市〉大竹遺跡群Ⅲ (縄文時代、古墳時代)  
松崎名代遺跡 (縄文時代、中世)  
郷部南台遺跡 (古墳時代～奈良・平安時代)  
名木毛成台遺跡 (古墳時代)  
名木不光寺遺跡 (古墳時代～中世)  
村田城跡 (中世)
- 〈佐倉市〉間野台・古屋敷遺跡C地区 (古墳時代～中世)  
江原台遺跡 (奈良・平安時代)  
佐倉城跡 (近世・近代)
- 〈四街道市〉馬場No.1遺跡 (奈良・平安時代)
- 〈富里市〉郷辺田遺跡 (弥生、奈良・平安時代)
- 〈栄町〉岩屋古墳 (古墳時代)
- 〈酒々井町〉墨木戸遺跡 (近世)

《平成24年度 報告書を刊行した遺跡》

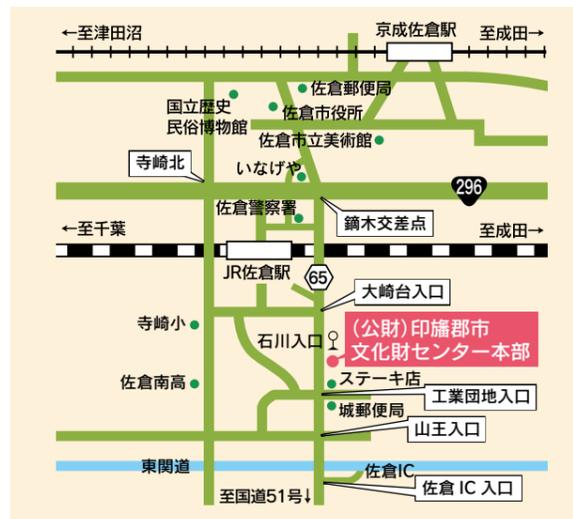
- 〈成田市〉中里原三角遺跡 (中世)  
南羽鳥遺跡群 (中世・近世)
- 〈佐倉市〉白井城跡 (中世)
- 〈四街道市〉馬場台No.1遺跡 (古墳時代)  
東作遺跡 (中世・近世)
- 〈富里市〉新込野馬土手 (近世)
- 〈酒々井町〉尾上平台遺跡・尾上平台南遺跡 (縄文・近世)

※発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず、事前にご連絡ください。

《おしらせ》

公益財団法人になりました

平成24年4月1日に当センターは公益財団法人に移行しました。引き続き変わらぬご愛顧をよろしく申し上げます。



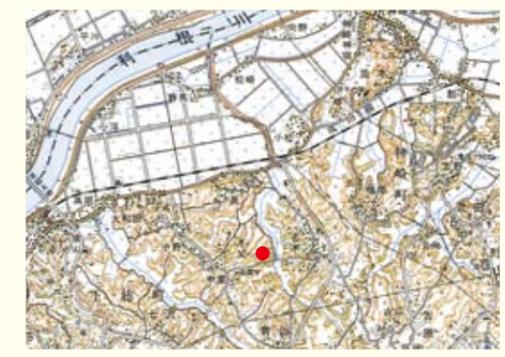
平成25年3月22日 043 (485) 9871 平成25年3月22日 043 (484) 0126(0) 千葉県佐倉市春路1-1-4 千葉県佐倉市春路1-1-4 千葉県佐倉市春路1-1-4 千葉県佐倉市春路1-1-4  
 http://www.inba.or.jp http://www.inba.or.jp http://www.inba.or.jp http://www.inba.or.jp  
 〒285-0814 千葉県佐倉市文化財センター 千葉県佐倉市文化財センター 千葉県佐倉市文化財センター 千葉県佐倉市文化財センター  
 発行・編集 フィールドブックvol.35 発行・編集 フィールドブックvol.35 発行・編集 フィールドブックvol.35 発行・編集 フィールドブックvol.35



成田市 名木毛成台遺跡



1号住居跡



遺跡位置図 (1:100,000)



出土した桃の種

名木毛成台遺跡は、成田市の北部、利根川の沖積地から1km程南の内陸部へ入った、標高34mの台地上に立地しています。遺跡の所在する台地は、細かな谷津が入り込む樹枝状の複雑な地形を形成しており、調査区域は北東側にのびる細長い尾根状の台地の基部近くに位置しています。今回の発掘調査は平成24年11月に実施し、調査区域は360㎡という狭い範囲でしたが、古墳時代後期の住居跡5軒、奈良・平安時代の土坑4基、近世の溝状遺構1条が検出されました。

このうち1号住居跡は、1辺が7.5m程の大型の住居跡で、平面形態は整った正方形をしています。住居の主な施設としては、北側壁の中央部分にはカマドがつけられています。また、カマドに向かって右側には貯蔵穴、そして上屋を支える4本の支柱穴と、カマドの対面には出入口施設を設置した5本目の柱穴が配置されています。

カマドの周辺からは、6世紀末と想定される須恵器の蓋などが出土しています。また、土器以外の遺物としては、ガラス玉、石製勾玉、土製勾玉、土玉なども出土しています。

その他、特殊な遺物としては、炭化した桃の種が出土しました。桃は神聖な果実として、祭祀儀礼の際に使用されたと考えられており、県内でもとくに古墳時代から奈良・平安時代の住居跡等からの出土例が認められています。本遺跡でも住居廃絶時の祭祀行為の際には、桃が供え物として使われたことが推定されます。

# 佐倉市 間野台・古屋敷遺跡 C地区 (第9次)



北側調査区 (南西から)

間野台・古屋敷遺跡は佐倉市臼井田に所在し、印旛沼を北に望む標高約28mの台地上に立地しています。今回は平成24年11月から平成25年2月にかけて、臼井中学校の西側に位置する北側調査区と、南側に位置する南側調査区の2地点の発掘調査を実施し、古墳時代後期竪穴住居跡18軒、奈良・平安時代竪穴住居跡11軒・掘立柱建物跡1棟・土坑1基、中世台地整形区画1ヶ所・掘立柱建物跡2棟・地下式坑9基・溝状遺構14条などが検出されました。

注目すべき遺構・遺物として、まず古墳時代後期の住居跡から子持勾玉や土鈴が出土しています。子持勾玉は、大きい勾玉の背・腹などに小さな勾玉状の突起がついたもので、祭祀に使われたと考えられます。佐倉市では初めて出土したものであり、また印旛郡内でも数例の出土例しかない貴重な遺物です。土鈴は、直径5cmほどの土製の鈴です。つまみ部分は欠損していますが、鈴の部分は完全な形で残っています。中には小石が数個入っており、振るとカラカラとかわいらしい音色がします。

また平安時代の住居跡からは、1辺3cm程の正方形の青銅製品が出土しています。これは帯金具という役人の帯を飾る金具の一つで巡方と呼ばれています。

中世の遺構としては、南側調査区で台地整形区画と呼ぶ1.5~2m程台地を削って造成した跡と、掘立柱建物跡、地下式坑などが見つかっています。平成20年度に中学校の南側を調査したときも同様の遺構が見つかり、「古屋敷」と遺跡名にもある屋敷跡の一部と考えられます。

また北側調査区では、南北に平行に伸びる2条の溝状遺構が確認できました。西側の1条は、底面に硬く踏みしめられた跡があることから、道路として使用されていたと考えられます。もう1条は深さ約1.5mを測り、断面がV字状を呈するものです。これらの台地整形区画や道路跡、溝状遺構は、「古屋敷」の景観を浮かびあがらせるための貴重な成果といえるでしょう。



帯金具 (巡方)



子持勾玉



土鈴出土状況



遺跡の位置 (1:50,000)



古墳時代後期の竪穴住居跡



台地整形区画

掘立柱建物跡

南側調査区 (南東から)